

神戸産クロコガネ屬甲虫に就いて

高橋壽郎

まへがき

クロコガネ属 (Lachnosterna) は従来 Holotrichia として取扱われて来たが沢田氏に依り L. W. Saylor の Lachnosterna 属が採用された、筆者も之に従つて此処では Lachnosterna を採用した。

日本産として現在此の属のものは7種知られて居るが甚だ良く似た種類で今迄の神戸産として記録されたものゝ内にも同定の誤りがある事と思われるし、又採集された本属のものゝ同定の手引にもと此処に神戸産本属のものを説明して見る事にする。

本文を草するに当り本属の標本の借用を御願ひした和田君、本文発表の機を与えられた思師室井先生に御礼申し上げる。

日本産クロコガネ屬目録

1. Lachnosterna castanea (WATERHOUSE)

クロイロコガネ

2. L. kiotonensis (BRENSKE) クロコガネ

3. L. convexopygo (MOSER) マルオクロコガネ

4. L. diomphlia (BATES) チョウセンクロコガネ

5. L. morosa (WATERHOUSE) オオクロコガネ

6. L. picea (WATERHOUSE) コクロコガネ

7. L. niponensis (LEWIS) ニッポンクロコガネ

日本産クロコガネ属としては上記7種が知られて居る、其の内4及び7のみ神戸に記録無く他の5種は神戸に産する。

神戸産クロコガネ屬索引

- I₁ 体面潤濁せず。光沢を有す。
- II₁ 翅鞘上に明瞭な縦隆線を認め得ず、頭頂部に鋭い横隆起線あり。……クロイロコガネ
- II₂ 翅鞘上に縦隆線を認め、頭頂部に隆起無し。
- III₁ 尾節板の前半部が凸形を呈し、後半部は平坦である。……マルオクロコガネ
- III₂ 尾節板は中央に於いて円味を帯び凸出して居る。……クロコガネ
- IV₁ 体背腹共に多少光沢を缺き或いは著しく白濁す。

IV₁ 腹部両側の翅鞘側縁と会する部分が稍々隆起し縦隆起を形成する。……オオクロコガネ

IV₂ 腹部両側の翅鞘側縁と会する部分が隆起せず。……クロコガネ

神戸産クロコガネ屬目録

1. Lachnosterna castanea (WATERHOUSE)

クロイロコガネ

本種は翅鞘上に明瞭な縦隆線を認め得ないことと、頭頂部に鋭い横隆起線があるので同属の他のものと区別出来る種なのであるが筆者不幸本種を神戸附近で採集した事が無い。神戸での今迄の記録を拾つて見ると

関公一氏、御影町 (昆蟲界, 13, p. 252, 1933)

本属のものでは本種のみ掲げてあるが、單なる種名

のみで真の本種であるかどうかは、わからない。

関公一氏、大阪・神戸附近の金龜子蟲 (昆蟲界, II, 9, p. 309, 1934)

成蟲にて越冬するものゝ如く早春石下にて採集出来るとある。(昆蟲界, V, 4, 4 p. 478, 1937)

北村達明氏、須磨附近金龜子科目録
三月中旬より四月初めまで多井畑にやゝ普通なりとある。

なお筆者の発表した報文 (神戸再度山附近産の甲蟲目録、昆蟲世界, 44, 515, p. 202, 1940. 神戸附近の金龜子蟲に就いて、昆蟲界, K, 86, p. 221, 1941) の本種はいづれも後述のマルオクロコガネであるので此処に訂正して置く。

(分布) 本州、済洲島、朝鮮。

2. L. convexopygo (MOSER)

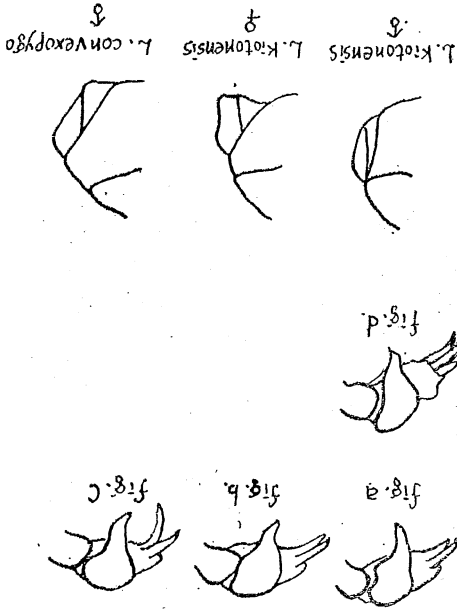
マルオクロコガネ

体色黒色より濃褐色にして上下面共光沢あり、胸背板の点刻粗大なり。頭幅幅広く粗大なる点刻を有す。前縁は上反し中央部少しく変曲す。会線は緩波状をなすも不明なり。前頭は強き粗点を有す。背胸板は短かくして幅広く大形の点刻を散布す。後縁角は畧ぼ直角をなし側縁に僅少の毛を有す。

後状部は稍や扁平にして滑かなり。基部に近く僅少の細点を存す。

翅鞘は合線に沿えるもの、外数個の縦隆線を明かに認め得る、側方ものは甚だ不明なり。全面に粗大なる点刻を具す。

尾節板は合♀共前半部が凸形を呈し、後半部は平坦である。



(採集地)①

鳥原, 2♂♂, 3-VIII-1938 (fig. b), 1♀, 21-IV-1940.

長田, 1♂, 13-III-1939 (fig. b)

舞子, 6♂♂, 2-VI-1940 (fig. a), 4♂♂, 8-VI-1940 (fig. a), 3♂♂, 8-VI-1940 (fig. c), 4♂♂, 2-VI-1940 (fig. c), 1♀, 24-V-1942.

富田林, 1♂, 16-VI-1939 (fig. d)

(分 布) 本州, 九州, 支那。

次記 *kiotonensis* 及び *diomphalia* と外見上甚だ極似し従来屢々混同されて同定されて居たと思われる。筆者も所有標本全部の合genitaliaに依り本種が神戸地方で余り記録無かつたが *kiotonensis* と同程度、場々に依つては其れ以上産する事を知り得た。形態的には *kiotonensis* と良く似て居り一寸別し難いが合genitalia及び尾節板の形態に依れば明瞭に区別出来る。

尙合genitaliaは沢田氏の記載されたもの(昆虫, XVII, 6, p. 15, f. 1949)と同一のものは1頭のみで

他の個体は少々違つて居たが之は別に問題にならぬと思われる。参考迄に筆者所有標本のgenitaliaを図示して置く (fig. a, b, c, d)。

3. *L. kiotonensis* (BRENSKE) クロコガネ

形態的には全くマルオクロコガネに似るので記載は省畧する。本種の合♀尾節板の形態が違ふ為本種の♀が新島・木下両氏(1923)に依りマルオクロコガネとして同定されていた。マルオクロコガネとは尾節板及び合genitaliaに依り区別出来る。

(採集地)

舞子, 2♂, 2-VI-1940.

開鏡(淡路), 1♂, 24-V-1942.

鳥原, 1♀, 4-V-1942. 1♀, 15-VI-1942.

(分 布) 本州, 九州, 四国, 隠岐島, 台湾, 支那, 朝鮮。

4. *L. morosa* (WATERHOUSE) オオクロコガネ

黒色背腹共に光沢無く光線に依り灰色の絨毛光沢を有す。頭楯の前縁は内方に窪み著しく上反す。点刻は大形にして密集し相着合す。

前頭部は平かにて粗点刻を密に有す。

胸背板は短かくして幅広く点刻は不規則に散在する。側縁に甚だ僅少の褐色毛を有す。

稜状部には僅少の微細なる点刻を有す。

翅鞘の縦隆線は明かでないが合線に接するもの、外三線を認め得る。尾節板は光沢を有す。腹面は尾節のみ光沢あり。

(採集地)

鳥原, 1♂, 1♀, 10-IV-1939.

舞子, 1♀, XII-1939.

(分 布) 樺太, 本州, 四国, 九州, 済洲島。

5. *L. picea* (WATERHOUSE) コクロコガネ

非常に良くクロコガネに似ると云われて居る。体黒褐、暗黄褐等あり。上下面光沢あり。

頭部の点刻密。後頭部は平滑。胸背板は前縁及び側縁に点刻を有す。稜状板は扁平なる三角形にて稍や多くの細点を両側に有す。翅鞘の点刻小にして密なり。腹面の尾節前の節には両側面の大部に濁濁せる斑紋状を存す。個体数多からず。

(採集地)

鳥原, 1♀, 3-VIII-1938. 1♂, 21-IV-1940. 1♂, 30-III-1942.

(分 布) 北海道, 本州, 九州, 朝鮮, 蒙古。

(May. 1951.)

① 採集地に掲げてあるものは総て現在筆者所有の標本である。